

事務事業マネジメントシート(平成30年度実績と平成31年度計画)

令和 2 年 2 月 20 日 更新

事務事業名		生涯学習講座運営事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	3	教育の健康				所属部	教育委員会事務局	課長名	栗木 清智
	施 策	10	生涯学習の推進				所属課	生涯学習課	担当者名	大隅 理央
	施策の柱	37	学習の啓発と参加機会の提供				所属班	生涯学習班	(内線)	1504
予算科目		会計一般	款 10	項 5	目 3	事業連番 10794	根拠法令			
終了、開始年度		☐ 30年度で終了 ☐ 30年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	中央公民館及び泉ヶ丘市民センター公民館で行なっている主催事業で、受講者の要望等を取り入れながら、各種の趣味講座を前期（4月～9月）・後期（10月～3月）で実施している。中央公民館定期講座は、社会教育法第5章公民館でも定義づけられ、住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として昭和46年ごろから事業が実施され、対象者（市民）の社会情勢等に伴う、個々のライフスタイルの変化から、求められるニーズも多様化し、講座メニューも変わってきている。
【業務の流れ】	①講座メニューの検討 ②講座内容の決定 ③講師の選定 ④講座案内チラシの作成 ⑤講座生募集・決定 ⑥講座の開催 ⑦講座終了後の評価 ⑧支払い事務 ⑨市民講座学習手帳の作成
【主な予算費目】	報酬（中央公民館長分、社会教育指導員）、報償費（講師謝礼）、需用費（消耗品費・印刷製本費）、備品修繕費、役務費（切手・ハガキ代）、委託料（パソコン教室）
【意見や要望】	応募に対して、意図的に受講生を選んでいるのではないかと疑う人がいる。（抽選によるものとしているが、過去に何度も申し込んで選ばれていない人は優先的に、一度にいくつも重複して申し込んでいる人については調整している。それは公平性のため仕方ないものとする。）また、市民の要望を取り入れた講座をしてほしいとの声がある。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 30年度実績(30年度に行った主な活動) (DO) ガーデニング教室、はじめての男の料理、実用書道、着付け、パソコン教室、女性セミナー、ことぶき教養大学等を実施した。		31年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) ガーデニング、実用書道、はがき絵、料理、切り絵、着付け、マナーセミナー、陶芸、アロマ、英会話、プリザーブドフラワー、音楽、コミュニケーション、心理学、パステルアート、アクセサリ作り、パソコン、タブレット、スマートフォン、健康づくり、出前講座、女性セミナー、男みがき塾、市民講座等を実施。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 講座開設数	講座	平成31年度講座企画(案)による報償費の減。社会教育指導員報酬、役務費の減。
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
→ ア 人口	人	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
→ ア 受講者数	人	
*③成果指標設定の理由と31年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
趣味講座を通じて人と交流することで、コミュニティの形成が期待される。将来は、この形成されたコミュニティの拡充及び充実に期待をしたい。		全体計画
		～ 年度
		0

(2)各指標・総事業費の推移										
		単位	28年度 実績(決算)	29年度 実績(決算)	30年度 目標(当初予算)	30年度 実績(決算)	31年度 目標(当初予算)	2年度 予定	3年度 見込	4年度 見込
① 活動指標		ア 講座	25	47	50	0	50	50	0	0
② 対象指標		ア 人	61,022	61,652	61,500	62,343	62,338	62,925	63,600	64,614
③ 成果指標		ア 人	376	513	650	845	650	650	650	0
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	629	1,079	960	1,319	1,280	1,000	1,000
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	4,275	4,622	8,048	6,535	6,193	6,257	6,257
	(A)事業費計	千円	4,904	5,701	9,008	7,854	7,473	7,257	7,257	7,257
		(A)のうち指定経費	千円	1,920	1,944	1,944	1,944	1,944	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	1	4	5	1	5	5	0
		延べ業務時間	時間	10	480	660	10	660	660	0
		(B)人件費計	千円	0	1,898	2,629	39	2,629	2,629	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	4,904	7,599	11,637	7,893	10,102	9,886	7,257	7,257

事務事業名	生涯学習講座運営事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は30年度の事後評価、ただし複数年度事業は30年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①30年度目標達成度評価	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒【原因】 本事業により趣味を通じた交流ができてきたが、各グループで独自に継続し取り組んでいるグループは少ない。
	②31年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 受講希望者が多く、また新講座開設の要望も多い。
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 市民全体の生きがい作りには及ばない部分もあり、より多くの市民が参加できるようにしていく必要がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 平成26年度より中央公民館運営事業（女性セミナー）と統合した。 平成28年度より出前講座開催事業と統合した。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費の大部分は講師謝金であり、講師の選定地域を極力市内に求めるなどで削減の余地がある。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 すでに正職員の関与は必要最小限となっている。アウトソーシングも考えられるが、削減につながるとは限らない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 材料代以外に、受講者より受講料を負担してもらっている。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 業務のほとんどは謝金支払いや講師依頼等であり、職員の業務として適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

近年は若い方の受講生も増えており、年齢層に幅が出てきた。しかし、男女の比率を考えると、女性が多いため、男性限定の講座開拓を行なった。今後も新規講座を開拓する際には考案する必要がある。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐廃止

☐休止

☐目的再設定

☐事業統廃合・連携

☒事業のやり方改善（有効性改善）

☐事業のやり方改善（効率性改善）

☐事業のやり方改善（公平性改善）

☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

(2) 改革・改善による期待成果
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上	○		
	維持			
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策